

ジャンル：食品加工業、農業、水産業、貿易、歴史学、地理学、栄養学、軍事、植民地

日本缶詰資料集

監修 河原典史（立命館大学文学部教授）

全5巻

——缶詰を通してみる日本近代史——

日本における缶詰の歴史は明治維新後すぐに始まった。欧米から食品の長期保存技術として缶詰の製法が伝えられ、軍需から民需へ、やがて外貨獲得のための一大産業へと発展していった。

この『日本缶詰資料集』に収録した資料には、それらの技術がどのように発展したかの沿革を詳細に書いた記述も含まれている。

缶詰製造の技術が日本の近代化に何をもたらしたのか、あらゆる角度から検討してもらいたい。

●書店名

クレス出版

歴史と希望が詰まっている

—『日本缶詰資料集』の刊行にあたって—

立命館大学文学部教授 河原典史 (歴史地理学)

明治初期、欧米諸国から学んだ缶詰は、食品保存の極めて有益な方法で、野菜や果物などの「青果類」を対象とする場合と、牛肉や鳥肉といった鳥獣類や魚介類などの「肉類」とに大別されます。青果類や鳥獣類を内容物とする缶詰工場は内陸部にも立地可能ですが、魚介類の場合はそのほとんどが臨海部に立地しています(ただし、市場との距離によってはその限りではありません)。やがて、日本製の缶詰は外貨獲得のために重要な輸出品となり、缶詰製造業は「産業」へと確立されていきました。

しかし、必ずしも大規模で普遍的な産業へ発展したとは言いがたい缶詰製造業は、現在の食品加工業では軽視される傾向にあります。また、缶詰製造数やその移出・輸出先などの統計、工場の操業地やその開業年などの基本的な情報も集約した総合的な資料は散逸しており、産業が成り立つ過程の背景理解は困難でした。今回の『日本缶詰資料集』の刊行により、近代日本における缶詰製造業の技術水準および歴史・地理的展開を把握することは、学術的にも大きな意味を持つでしょう。

昭和5(1930)年に朝鮮総督府が作成した『水産製造品検査成績要覧』によれば、植民地期の朝鮮からも中国・台湾へはサバ・サザエ缶詰、さらにホノルル、シアトルやシドニーなどの環太平洋地域にはカニ缶詰が輸出されていました。内容物が描かれ、外国語の表記が添えられた缶詰ラベルは、写実的で食欲をそそるとともに、芸術的で美術作品のようでもありました。

保存食としての缶詰は、一般的な食品加工業だけでなく、軍需産業として発展したことにも留意しなければなりません。また、缶詰製造業は内容物の収穫・加工だけでなく、その製造・輸送の工程において関連する様々な労働者を必要とし、大規模な雇用を創出しました。それは、外地と呼ばれた当時の日本植民地地域や外国への人々の移動も生み出したのです。その代表的なものとして、朝鮮半島南部のサザエやアワビ、台湾のパイナップル、アメリカ西岸のツナやカナダ西岸のサケ缶詰製造業が挙げられるでしょう。

かつて日本では、家族が揃った食卓で、父親に助けをもらいながら大きな缶切りでモモやパイナップルの缶詰を空ける——そんな風景がありふれていました。甘い汁に浸かった珍しい果実は、ケーキやシュークリームなどの菓子よりも華やかで、高度経済成長期後半に幼少期を過ごした私のささやかな思い出でもあります。

冷蔵・冷凍などの保存技術、流通システムの発達によって、最近では、あまり缶詰は食卓にみられなくなりました。しかし、災害時の保存食として、改めて「缶詰」を見直す機運も高まりつつあります。『日本缶詰資料集』の刊行にあたって、缶詰の歴史を振り返るとともに、今後の缶詰産業のあり方をみなさんとともに学びたいと思います。

日本缶詰資料集 内容紹介

第1巻 東京缶詰同業組合十年史

附録 缶詰要覧(昭和九年版)

●東京缶詰同業組合/昭和九(一九三三)年/東京缶詰同業組合

●附録 缶詰要覧(昭和九年版) (本邦缶詰沿革表/外国缶詰沿革表/缶詰の鑑定/缶詰検査標準/缶詰関係法規(本邦/北米合衆国食品薬種法及同施行規則/陸軍缶詰購買規格/海軍缶詰購買規格/缶型並内容量標準規格表/缶詰類各国輸入関税率表/本邦缶詰生産統計(昭和五、六、七、年)/本邦缶詰輸出統計(昭和七年仕向地別)/市販缶詰開缶研究会の実績/水素イオン濃度(PH)測定法/参考用諸表/本邦主要缶詰関係業者名/試験研究機関)

第2巻 缶詰要覧(1)

缶詰要覧(昭和一一年版)

●日本缶詰協会編/昭和一一(一九三六)年/日本缶詰協会

●内容 本邦缶詰沿革表/外国缶詰沿革表/缶詰の鑑定/缶詰検査標準/缶詰関係法規(本邦/北米合衆国食品薬種法及同施行規則/英吉利食品防腐剤及着色取締法抜粋/独逸に

第3巻 缶詰要覧(2)

缶詰要覧(昭和一三年版)

●日本缶詰協会編/昭和一三(一九三八)年/日本缶詰協会

●内容 本邦缶詰沿革表/外国缶詰沿革表/缶詰の鑑定/缶詰検査標準/缶詰関係法規(本邦/北米合衆国食品薬種法及同施行規則/北米合衆国農務省食品薬種駆虫剤管理局告示及取締規則/英吉利食品防腐剤及着色取締法抜粋/独逸に於ける防腐剤使用許可量一覽表/仏蘭西原産地虚偽偽指示を罰する法律/陸軍缶詰購買規格/海軍缶詰購買規格/缶詰内容標準量及標準缶型規格/缶詰類各国輸入関税率表/缶詰類輸入に関する各国関税変更、互恵通商協定、其他に関する事項/市販缶詰開缶研究会総合統計/缶詰参考用諸表/本邦主要缶詰関係業者名/鋼鋸業者/缶詰機械及材料業者/缶詰検査所/缶詰研究機関/缶詰関係新聞社

第4巻 大阪の缶詰工業

大阪の缶詰工業

●大阪市役所産業部貿易課/昭和一二(一九三三)年/大阪市役所産業部貿易課

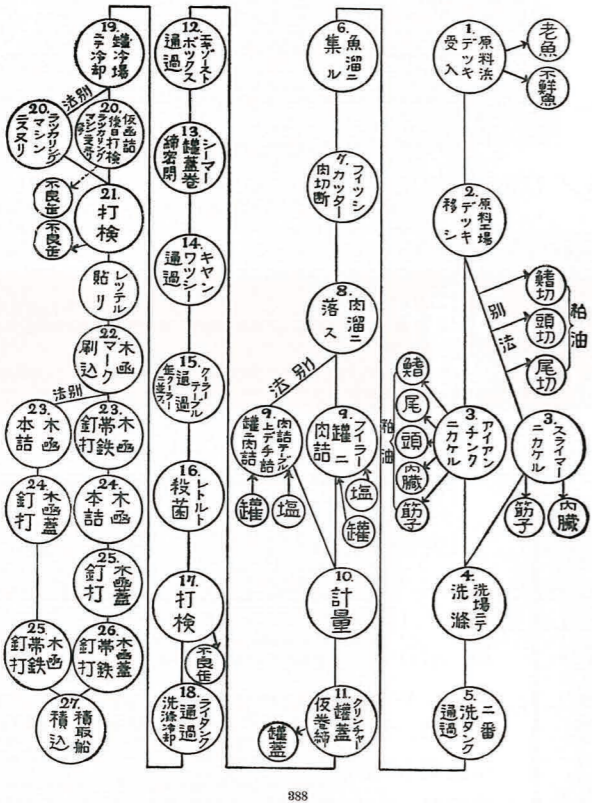
●内容 第一章 缶詰工業の沿革/第二章 我国缶詰工業の現状/第三章 大阪の缶詰工業/第四章 生産状況/第五章 経営事情/第六章 労働事情/第七章 原料及材料/第八章 生産工程/第九章 取引事情/第十章 商標荷造及包装/第十一章 内容標準量及標準缶型規格/第十二章 製品検査方法とその標準/第十三章 生産及販売の統制/第十四章 同業者団体/第十五章 斯業の将来/第十六章 海外市場に於ける本邦缶詰の状況/附録 各国缶詰類輸入税率表

第5巻 日本水産物缶詰製造業要覧

●農林省水産局編纂/昭和九(一九三三)年/農業と水産社

●内容 一、地方別缶詰工場名、所在地並製品種類/二、缶詰種類別工場名並生産高/三、缶詰工場各別要覧/四、五十音索引

鮭罐製造工程図



第1巻 『東京缶詰同業組合十年史』より 附録「缶詰製造工程図」

海軍罐詰購買規格

●本項は海軍省軍需局第三課より提示されたもの及び海軍主計中佐長尾鶴氏の講義「海軍罐詰」より併録したものであることを附記す。

現行施行されてゐる海軍罐詰に関する事項は「海軍給與令」中の規定に依るもので、平時に於ける諸規格を基準として戦時に於ける給與及購買をも行はれるのである。但し戦時は作戦行動に順應せんが爲生糧品の蒐集困難なる場合も多々あるので、其所要数量増を来たすべしは勿論である。

一、罐詰の給與

海軍に於て使用されてゐる罐詰類は貯蔵魚肉と特殊貯蔵鳥獣魚肉の二つに大別され、此外罐詰野菜、罐詰果物、罐詰牛乳がある。貯蔵魚肉と稱するものは「ローストビーフ、コンドビーフ、鮭、鯖、鰯の水素」(一名普通罐詰)である。

あつて又同じ軍用品でも平時屯營内で食ふものは一般民用品と同様なものでよろしく唯内容が兵食向きに出来て居ればよいのである。

特殊鳥獣魚肉と稱するものは牛肉大和煮、同佃煮、其他鳥獣魚肉を原料とした味附品。(一名特殊罐詰)

右の外罐詰果物、罐詰野菜、罐詰牛乳をも購買給與する。之等を給與するに當つては貯蔵魚肉は毎月二回宛となつてゐるが、在庫或は航海中等の關係で右回数以上に給與されることがある。普通は一人一食一〇〇瓦を給され、例外として潜水艦、航空機等の乗員に對しては夫々相當量を増給される。

特殊貯蔵鳥獣魚肉は漬物、行軍、其他航海中生糧品を得らるる場合普通の貯蔵魚肉に換へて適宜給される。罐詰果物、罐詰野菜は前同様遠洋航海其他の艦船に於て生果野菜の得られない場合に給される。普通一旬三食以内長

第2巻 『缶詰要覧』より「海軍缶詰購買規格」

日本缶詰資料集 河原典史 監修 (すべて税別)

第1巻	東京缶詰同業組合十年史	定価 18,000 円	ISBN 978-4-86670-052-6
第2巻	缶詰要覧 (1)	定価 18,000 円	ISBN 978-4-86670-053-3
第3巻	缶詰要覧 (2)	定価 18,000 円	ISBN 978-4-86670-054-0
第4巻	大阪の缶詰工業	定価 18,000 円	ISBN 978-4-86670-055-7
第5巻	日本水産物缶詰製造業要覧	定価 18,000 円	ISBN 978-4-86670-056-4
		揃定価 90,000 円	ISBN 978-4-86670-057-1

A5 判 / 上製函入 / クロス装 / C3360 / 2019 年 4 月 25 日刊行

——缶詰を通してみる近代日本史——

クレス出版の大好評既刊書 (すべて税別 / 表記以外 A5 判 / 上製函入 / クロス装)

明治大正産業史 全4巻

帝国通信社 編

(原本=昭和3年、帝国通信社『日本産業史』版)

高橋亀吉執筆による総論と17業種の産業沿革史(銀行業・外国貿易と取引所・繊維・機械器具・化学・窯業・食料品・電力・ガス・交通・鉱業・金属・精錬・産業補助機関・農業・水産業)から成る、近代日本産業発展史を定点観測した研究成果。第七編「食料品工業」第四章で缶詰製造業を扱う。

揃定価 80,000 円 ISBN 978-4-87733-069-9

外国経済統計 全5巻

日本銀行調査局 編 中村隆英 解題

(大正11年~昭和16年版 / B5判)

大正11年の創刊版から昭和16年版まで戦前分を復刻。項目を財政・金融・貿易・為替・産業・雑に大別し、それぞれに主要国の統計を年次で掲載する。第一次世界大戦、世界恐慌、第二次世界大戦勃発という歴史的に重要な時代の国際情勢、国際経済を知るうえでの貴重資料。

揃定価 96,000 円 ISBN 978-4-906330-95-9

日本帝国国勢一斑 全三回 全14巻

内務省 編纂 広瀬順皓 解題

全巻揃定価 318,000 円

明治15年から昭和14年まで毎年刊行された統計年鑑。土地・戸口・農業及水産・作業・交通・商業及会社・外国貿易・衛生・社寺・教育・図書・警察・監獄・司法・陸軍・海軍・財政及貯蓄・官史及議会・外交など項目はあらゆる分野にわたり、近代日本の歩みを基礎的数値で示す。

第1回 全5巻 (B5判)

揃定価114,000円 ISBN 978-4-906330-90-4

第2回 全5巻 (B5判)

揃定価110,000円 ISBN 978-4-906330-91-1

第3回 全4巻 (B5判)

揃定価94,000円 ISBN 978-4-906330-92-8

日本食育資料集成 全三回 全13巻

山下光雄 解説

全巻揃定価 243,500 円

正しい歴史的観点に基づいた食育へ取り組むべく、栄養学、食品標準成分表、食事摂取基準、国民食栄養基準、食品重量(100)=一般栄養成分などの導入の背景、変遷に関する貴重書を復刻。また戦時下の学校給食、関東大震災の被災者への給養活動などの資料も収録。

日本食育資料集成 第一回 全3巻

山下光雄・野口孝則・渡邊智子 企画・監修

揃定価70,000円 ISBN 978-4-87733-943-2

日本食育資料集成 第二回 全5巻

山下光雄・野口孝則・渡邊智子 企画・監修

揃定価86,500円 ISBN 978-4-87733-995-1

日本食育資料集成 第三回 全5巻

大谷八峯・武田純枝・山下光雄 企画・監修

揃定価87,000円 ISBN 978-4-86670-005-2